

『百人一首の図像学——狂歌絵師北斎 最後の大作』

著者；岡林みどり

発行；東京・批評社；2020年6月 定価；3500円+税

内容

■百人一首抄と百人秀歌の一覧

■カラー口絵（7ページ）

鳶の細道図屏風（宗達）、源氏物語絵図屏風（宗達）、百人一首姥がゑとき（北斎）

専修大学本「天稚彦物語絵巻（七夕のさうし）」、修学院離宮 中茶屋のしつらえ

■プロローグ——百人一首抄と百人秀歌、2つの三十六歌仙集、伊勢物語と源氏物語

■第一部；百人一首の図像学

1章；北斎の「百人一首姥がゑとき27枚」について

2章；宗達から北斎を照射する

3章；江戸期における「百人一首抄」と「百人秀歌」

◎；光琳カルタの隠したものと顕わしたもの

◎；春道列樹の「しがらみ」の歌は32番におかれている

4章；まめやかとは何か；契沖の「百人一首改観抄」の革新性

■第二部；和歌伝承における数理表章の多様性と一貫性

5章；絵巻物語「天稚彦物語（七夕のさうし）」の重層性

6章；後水尾院の御所伝授を考える

◎数理表章としての市松模様と網代垣模様の相補性

7章；万葉集にみる数理数章

◎；万96～万100にみる方円数

◎；歌語「蟻通」に表象される度量衡数

◎；勅撰、準勅撰の和歌集の総歌数の内部連関

■コラム；カシオペア5星の形象と北斎の19枚目の絵柄

■第三部；万葉集の「梅花歌三二首 并序」から万葉集を照射する

8章；「梅花歌三二首 并序」の外部連関を考える

■エピローグ——万葉集の天皇御製歌と大伴家持をつなぐ北斎の狂歌力

■あとがき——ダンテの神曲、西遊記も数理表章を埋め込んでいる

■索引 ■参考文献